

令和2年度一番茶実収報告

京都府農林水産技術センター
農林センター 茶業研究所

1. 摘採日

仕立て法	本年	前年	前5か年
自然仕立て	5月 6日	5月 8日	5月 4日
弧状仕立て	5月 3日	5月 7日	5月 3日

2. 生葉収量 (kg/10a)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	594.6 ± 53.5	98	512.5 ± 47.8	84	608.1 ± 72.2	100
弧状仕立て	277.8 ± 53.9	85	211.1 ± 54.3	65	325.8 ± 77.4	100

○指数は前5か年平均を100とした場合の比

3. 百芽重 (g)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	百芽重	指数	百芽重	指数	百芽重	指数
自然仕立て	60.7 ± 3.7	108	57.4 ± 6.2	102	56.1 ± 7.8	100
弧状仕立て	38.8 ± 6.8	69	58.9 ± 7.2	105	56.0 ± 11.2	100

4. 新芽数 (本/m²)

仕立て法	本年		前年		前5か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	457.0 ± 54.2	102	345.0 ± 40.2	77	446.4 ± 84.0	100
弧状仕立て	1920.0 ± 348.6	178	916.7 ± 252.4	85	1076.3 ± 277.7	100

○自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

5. 出開き度 (%)

仕立て法	本年	前年	前5か年平均
自然仕立て	40.2	32.5	45.1
弧状仕立て	55.1	49.6	57.8

6. 概要

(1) 摘採日

本年の一番茶摘採日は、自然仕立て園では、前5か年平均より2日遅い5月6日、弧状仕立て園では、前5か年平均並の5月3日となった。

(2) 生葉収量

自然仕立て園では、生葉収量は前5か年平均並、弧状仕立て園では、前5か年平均と比べて少なかった。弧状仕立て園においては、百芽重が軽かったことが生葉収量の少ないことの要因であると考えられた。

(3) 病害虫の発生状況

当所におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺状況は、チャノコカクモンハマキは、誘殺数が少なく（平年比25%）、誘殺盛期が5月第1半旬とやや早かった。チャノホソガは誘殺数が多く、（平年比141%）、誘殺盛期が3月第6半旬と早かった。

作況園では、特に問題となる病害虫の発生はなかったが、所内の覆い下茶園においてコミカンアブラムシの発生が見られた。

(4) 茶市場の出荷状況

5月25日現在の全農京都茶市場への出荷量は、対前年度同回までの累計比で、てん茶が70%、揉み茶が88%となっている。

手摘みてん茶	: 91%	はさみ摘みてん茶	: 69%
手摘み玉露	: 115%	はさみ摘み玉露	: 87%
煎茶	: 100%	かぶせ茶	: 90%